平成 29 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

平成 29 年 10 月 11 日（水）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が山市場試験施工地（神奈川県足柄上郡山北町）で開催されました。当日は協会員 17 名が参加し，施工 3 年 5 ヵ月後の植生状況を見学しました。

この現場は，神奈川県が検討している生物多様性に配慮した緑化のための試験施工の一環として，平成 26 年 5 月 26 日に斜面樹林化工法が施工されました。緑化目標を中高木林型の落葉広葉樹林の形成とし，木本植物 10 種を配合し施工した結果，草本植物を配合しなくても施工 6 ヵ月後には植被率が 60%に達していました。施工後 3 年 5 ヵ月が経過した現在では，平均群落高が 3m を超え，ヌルデが被度 5 で優占し，エノキ，ムクノキ，キハダ，クサギなど，周辺に生育する植物種で構成される落葉広葉樹群落が形成され，緑化目標を達成している状況が確認されました。

午後からは，神奈川県自然環境保全センターで技術研修会が行われ，東京農業大学地域環境科学部の橘准教授より「法面緑化工に求められる機能の考え方」について話題提供いただき，緑化工施工にかかる環境負荷量について LCA という新たな観点からの評価方法などをご説明いただきました。また，播種工と自然侵入促進工を組み合わせた斜面樹林化工法エコストライプ仕様の工法概要と施工事例の説明が行われ，斜面防災と自然回復の両立を低コストで実現することができる新たな緑化手法であることが説明されました。



参加者一同（右後ろが施工地）



現場説明を受ける参加者



技術研修会